

- 2024 -

公開研修会のお知らせ

夏のセミナー 日程とタイトル

7月23日(火)～24日(水)	S1 基礎から学ぶ発達障害・知的障害
7月25日(木)～26日(金) 同日程で同時開催	S2 ことばの育ちを支援する—評価法と多様な側面への理解と支援
	S3 「不器用」への理解と支援
7月27日(土)～28日(日) 同日程で同時開催	S4 特別な関わりが必要な子への保育・幼児教育
	S5 「行動の問題」の見方と対応の実際—多面的な理解とアプローチ
8月4日(日)～5日(月) 同日程で同時開催	S6 子どもと関わる先生のための家族支援講座
	S7 「発達の評価」を学ぶ —支援に繋がる検査結果の読み取り方を中心に
8月6日(火)～7日(水)	S8 ASD(自閉スペクトラム症)の子の理解と支援の実際

秋のセミナー 日程とタイトル

10月20日(日)	S9 遊びを通して発達を促す—感覚、生活動作、学習へのアプローチ
10月27日(日) 同日程で同時開催	S10 愛着障害を学ぶ—園や教室での対応の実際
	S11 DCD(発達性協調運動障害)を学ぶ
11月10日(日) 同日程で同時開催	S12 困る行動への理解と対応
	S13 思春期を見据えた支援—学齢期に身につけておきたいこと
11月17日(日)	S14 指導に活かす発達の評価—WISC-Vを中心に
11月23日(土・祝) 同日程で同時開催	S15 発達障害・知的障害のある子の「感覚」への支援
	S16 脳の働きをふまえた発達支援—認知行動療法についても



The Japanese Association on Intellectual and Developmental Disorder

発達協会

公益社団法人 発達協会

<https://www.hattatsu.or.jp>

2024 夏のセミナー開催要項

現場でニーズの高いテーマについて、実践経験豊富な講師陣がわかりやすくお伝えします。対面による開催です!!

- 時間帯** 受付 9:30 ~ 第1講 10:15 ~ 11:45 第2講 13:00 ~ 14:30 第3講 14:50 ~ 16:20
※各セミナー 2日間の日程で行います ※昼食は各自でご用意ください
- 受講料** 1セミナー (2日間) 15,400円 (税込) 正会員・賛助会員は、会員割引13,860円 (税込)
※セミナー単位の申込です
- 会場** 東京ファッションタウン (TFT)ビル 東館9階研修室
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11
最寄り駅：東京ビッグサイト駅 (ゆりかもめ) 徒歩 1分、国際展示場駅 (りんかい線) 徒歩 5分
- 定員** 120 ~ 160名 (定員になり次第締め切ります)
- お申し込み** Peatixよりお願いします。 <https://peatix.com/group/11688302>
※原則としてクレジットカードによるお支払いとなります。
※法人による銀行振込の場合は、お問合せください。
*社会状況等の変化により、中止になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
*会場の都合により、会場での書籍等の販売は行っておりません。
- お問い合わせ** 公益社団法人発達協会 〒115-0044 東京都北区赤羽南2-10-20 TEL03-3903-3800
ホームページ <https://www.hattatsu.or.jp> メールアドレス mail@hattatsu.or.jp



2024年7月23日 (火)・24日 (水)

S1 基礎から学ぶ発達障害・知的障害



対象年齢： 幼児 |-----| 青年

新卒や経験の浅い指導・支援者の方を対象にしたセミナーです

発達障害・知的障害のある子どもはどのように成長していくのか、それぞれの発達段階でどのような支援が必要なのか、お子さんや家族と関わっていく上で何を大切にしたらよいのか。支援者自身が見通しを持つことで、その時期に必要な支援の方向性が見えてきます。何をどのように進めるとよいのか、具体的な指導・支援の方法を事例とともにわかりやすくお伝えします。現場で日々感じている悩みについて、解決の糸口が見つかるセミナーです。

7月23日 (火)	10:15 ~ 11:45	神経発達症・知的発達症の理解	大谷良子 (獨協医科大学埼玉医療センター子どもこころ診療センター)
	13:00 ~ 14:30	ライフステージごとの課題と合理的配慮	長澤正樹 (元新潟大学教職大学院/新潟スクールカウンセラー)
	14:50 ~ 16:20	保護者との連携-協働するためのポイント	長澤正樹 (元新潟大学教職大学院/新潟スクールカウンセラー)
7月24日 (水)	10:15 ~ 11:45	療育とは-子どもと関わる時に大切にしたいこと	藤原里美 (チャイルドフード・ラボ)
	13:00 ~ 14:30	社会性の発達とその支援①-学齢期に育てたい生活スキルやコミュニケーションを中心に	日戸由刈 (相模女子大学)
	14:50 ~ 16:20	社会性の発達とその支援②-青年期までに身につけたいこと	日戸由刈 (相模女子大学)

2024年7月25日 (木)・26日 (金) 2セミナー 同時開催

S2 ことばの育ちを支援する - 評価法と多様な側面への理解と支援



対象年齢： 幼児 |-----| 青年

経験や勘だけに頼らない、適切な評価 (アセスメント) に基づいた指導方法を学びます

「ことば」は、子どもの発達の中で、最も関心の高い領域です。「ことば」でのやりとりには、理解、表出だけでなく、聴こえの問題やししゃべり方、発音など、多様な側面があります。大人は、それぞれの側面の発達や関連をふまえた上で、子どもと関わる必要があります。このセミナーでは、言語発達やことばの評価についてもわかりやすく解説。生活の中での実践例も多数紹介する充実のセミナーです。

7月25日 (木)	10:15 ~ 11:45	ことばの発達とその障害	大伴 潔 (東京学芸大学)
	13:00 ~ 14:30	ことばの発達の評価-LCスケールを中心に	大伴 潔 (東京学芸大学)
	14:50 ~ 16:20	<S-S法>からみた言語の評価	本間慎治 (発達協会王子クリニック)
7月26日 (金)	10:15 ~ 11:45	聴こえと言語発達の関係	岡野由実 (群馬パース大学)
	13:00 ~ 14:30	話しことばに関する問題-構音障害と吃音について	原 由紀 (北里大学)
	14:50 ~ 16:20	ことばの遅い子への支援-園や家庭で取り組む支援の実例	田中春野 (言語聴覚士)

S3 「不器用」への理解と支援



対象年齢： 幼児 |-----| 青年

粗大運動、手指・道具の操作、視覚認知といった各領域からの支援について

幼いからできないのか、不器用だからなのか?あるいは、診断名がつかほどの状態なのか?その見極めとともに支援の実際を学びます。粗大運動や、微細運動と言われる手指の使い方、道具の扱いなど、生活や遊びの中でどのように育てていけばよいか。ボディイメージと見る力との関係や、学習する上での配慮についても、見通しを持って支援ができることをめざします。

7月25日 (木)	10:15 ~ 11:45	「不器用さ」のメカニズム-DCD診断のポイントを中心に	加久翔太郎 (医療法人 聖育会 clinic WIZ のぼりと・ゆうえん小児科/聖マリアンナ医科大学)
	13:00 ~ 14:30	手指操作の発達とその支援	松本政悦 (横浜市北部地域療育センター)
	14:50 ~ 16:20	遊びや生活の中での育て方の実際	松本政悦 (横浜市北部地域療育センター)
7月26日 (金)	10:15 ~ 11:45	視機能と視覚認知が関与する学習のつまずき	築田明教 (視覚発達支援センター)
	13:00 ~ 14:30	発達障害・知的障害のある子の道具の操作を支援する-学齢期を中心に	平田正吾 (東京学芸大学)
	14:50 ~ 16:20	不器用な子への運動指導	村上祐介 (順天堂大学)

S4 特別な関わりが必要な子への保育・幼児教育



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

集団の中で一人ひとりへの配慮と適切な関わりを持つために

集団の流れにのれない、勝手な行動が多いなどクラスの中に何人か、特別な関わりを必要とする子がいます。障害のあるなしにかかわらず、発達の特徴を知り、それをふまえて関わるのが効果をあげます。運動面や気持ちのコントロールについても同様のことが言えます。同時に、「クラス」という環境をどのように整えよといのか、クラスづくりと個別支援の両面についてお伝えします。現場で活かせる内容満載のセミナーです。

7月27日(土)	10:15 ~ 11:45	特性をふまえた関わり方	水野智美(筑波大学)
	13:00 ~ 14:30	運動の苦手な子への支援	東恩納拓也(東京家政大学)
	14:50 ~ 16:20	衝動的な行動の理解と支援	熊 仁美(特定非営利活動法人ADDS)
7月28日(日)	10:15 ~ 11:45	幼児期における情動調整の発達と支援の考え方	小野里美帆(文教大学)
	13:00 ~ 14:30	クラスづくりとは—どの子にとってもわかりやすく	佐藤 暁(岡山大学)
	14:50 ~ 16:20	クラスの中での支援の実際	佐藤 暁(岡山大学)

S5 「行動の問題」の見方と対応の実際

—多面的な理解とアプローチ



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

行動の問題だけではなく、その前後の状況や子ども自身の特性にも配慮し、普段からの予防策も

興奮しすぎたり、攻撃的になったり、不安を感じやすい子もいます。指導・支援者はどのように考えて接すればよいのか、悩みが尽きないのが「行動の問題」です。このセミナーでは、医学でできることもお伝えした上で、子どもの環境や状況、捉え方を整理し、支援計画の立案から支援の実際を講義。解決のためのコツや、予防的な対応についても解説。2日目は応用行動分析(ABA)による支援について事例検討も行い、更に理解を深めます。

7月27日(土)	10:15 ~ 11:45	「行動の問題」への医学的対応—幼児～学童期のかんしゃくやパニック、ゲーム依存への対応など	作田亮一(獨協医科大学埼玉医療センター子どもこころ診療センター)
	13:00 ~ 14:30	チームアプローチによる行動問題への対応	林 大輔(たくと大府)
	14:50 ~ 16:20	ものごとの捉え方への支援—園や教室でできるアプローチの実際	土屋さとみ(アース・キッズ株式会社 発達障害療育研究所)
7月28日(日)	10:15 ~ 11:45	応用行動分析(ABA)による発達支援と「行動の問題」の解決の基礎	山本淳一(慶応義塾大学/東京都立大学)
	13:00 ~ 14:30	「行動の問題」の解決の実際 1	山本淳一(慶応義塾大学/東京都立大学)
	14:50 ~ 16:20	「行動の問題」の解決の実際 2	山本淳一(慶応義塾大学/東京都立大学)

S6 子どもに関わる先生のための家族支援講座



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

家族への働きかけは大きな課題です

子どもの成長・発達に大きな影響を与える「家族」。家族の変化や家庭での取り組みが、子どもの成長・発達に良い影響を与える場合も多いもの。しかし、保護者との関係、つきあいに悩んだことのない人はいないでしょう。世代・時代の差か、価値観の変化なのか?社会が変わっていく中で、家族の抱える問題とは何か。障害を受容することを改めて学び、機能不全の家族やきょうだいへの配慮も含め、家族全体を見ながら支援する視点について。

8月4日(日)	10:15 ~ 11:45	「家族を支える」—障害受容への理解を深める	広瀬宏之(横須賀市療育相談センター)
	13:00 ~ 14:30	保護者相談の心得	竹森亜美(星美学園短期大学)
	14:50 ~ 16:20	ペアレント・トレーニングの実際	石井礼花(国立精神・神経医療研究センター)
8月5日(月)	10:15 ~ 11:45	機能不全家族の子どもの行動異常とその支援—虐待ケースへの対応を含めて	横山浩之(福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター)
	13:00 ~ 14:30	障害のある子のきょうだいへの支援を考える	吉川かおり(明星大学)
	14:50 ~ 16:20	対応の難しい保護者とのコミュニケーション	田中里実(東京都立大学)

S7 「発達の評価」を学ぶ

—支援に繋がる検査結果の読み取り方を中心に



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

指導・支援を行う上で欠かせない、客観的な指標について学びます

子どもの学び方、コミュニケーションや行動の特性を知る手がかりとなる発達検査・知能検査。何を調べるのかによって、必要な検査も変わります。このセミナーでは、検査の役割について学んだ上で、新版K式発達検査、K-ABCII、WISC-Vを取り上げます。また、クロスバタリーアセスメントについてもふれます。検査の取り方ではなく、検査からわかることや結果の解釈法について学び、検査結果を指導・支援に活かすためのセミナーです。

8月4日(日)	10:15 ~ 11:45	発達検査・知能検査とは—役割から結果報告のポイントまで	樋口隆弘(関西医科大学総合医療センター)
	13:00 ~ 14:30	新版K式発達検査の概要と実施、結果の読み取り方	樋口隆弘(関西医科大学総合医療センター)
	14:50 ~ 16:20	K-ABCIIの結果を支援へどう繋げるか	永田真吾(山梨大学)
8月5日(月)	10:15 ~ 11:45	WISC-Vの概要	青山真二(北海道教育大学)
	13:00 ~ 14:30	WISC-Vの結果の読み取り方	青山真二(北海道教育大学)
	14:50 ~ 16:20	検査結果を支援に活かすには—クロスバタリーアセスメントも含めて	青山真二(北海道教育大学)

2024年8月6日(火)・7日(水)

S8 ASD (自閉スペクトラム症)の子の理解と支援の実際



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

ひとことで「ASD」と言っても、その特性の表れ方は様々です

このセミナーでは、ASDについての基本的な知識や支援の考え方を整理した上で、行動や感覚、認知、コミュニケーションなど、様々な角度からその特性と支援について学びます。友達と一緒に遊べない、自分のやり方を変えられない、変化に対応できない……。そんなお子さんと関わる支援者の皆さんに「きみはそんな風に思っていたんだね」というヒントを見つけてもらうためのセミナーです。ASDの基本的な知識を整理したい方が対象です。

8月6日(火)	10:15 ~ 11:45	ASDとはー特徴と診断	本田真美 (みくりキッズくりにつく/あのねコドモくりにつく)
	13:00 ~ 14:30	ASDの子の特性と支援の基本	井上雅彦 (鳥取大学)
	14:50 ~ 16:20	行動の問題へのアプローチの実際	井上雅彦 (鳥取大学)
8月7日(水)	10:15 ~ 11:45	ASDの子の感覚の問題	和田 真
	13:00 ~ 14:30	ASDの子の認知特性	大島郁葉 (千葉大学子どものこころの発達教育研究センター)
	14:50 ~ 16:20	ASDの子のコミュニケーション	原 哲也 (児童発達支援事業所WAKUWAKUすたじお)

対面セミナーアンケートより

とても勉強になりました。とても分かりやすい話ばかりでした。「好奇心は認知発達の原動力」という言葉がとても印象に残りました。ことばのさまざまなレベルの押さえを知っておくことの大切さを知りました。(特別支援学校教員)

具体例がたくさんあって、とても参考になりました。否定せずに聴く姿勢も大切だけれども、こちらができないことは明確に説明して良いということも分かってほっとしました。(特別支援学校教員)

講義の内容もわかりやすく充実していましたが、最後の質疑応答の中での先生のお話が、プラスアルファで大変勉強になりました。(保育士・幼稚園教諭)

支援者という言葉ではなく「対人援助者」という言葉を使っているのが印象的だった…。対人援助者は、保護者が「なんでうちの子に障害があるんだろう」という気持ちを常に抱えている、ということをお忘れずに接する必要があるということ、肝に銘じようと思った。(特別支援学校教員)

ワークショップがあり眠気を感じる間もなく1日講義に参加出来た。(福祉施設・指導員)

会場では一体感があり、集中して学ぶことができた(教師)

きょうだい支援は、必要性を強く感じているので大変勉強になった。(心理職)

医学的な子どもの捉え方や対応は初めてだったので、大変参考になりました。基礎的なことから教えていただき、大変わかりやすかったです。(特別支援学校教員)

応用行動分析と、名前を聞くと難しく感じますが、ふだん園で行っていた子どもとの関わりがそれであったことを再認識しました。今回学んだことを自分の財産とし、今後の保育に活かしていきたいです。(保育士・幼稚園教諭)

2024 秋のセミナー開催要項

現場でニーズの高いテーマについて、実践経験豊富な講師陣がわかりやすくお伝えします。対面による開催です!!

時間帯 受付 9:30 ~ 第1講 10:15 ~ 11:45 第2講 13:00 ~ 14:30 第3講 14:50 ~ 16:20
※昼食は各自でご用意ください

受講料 1日 各9,900円(税込) 正会員・賛助会員は、会員割引8,910円(税込)
※セミナー単位の申込です

会場 東京ファッションタウン (TFT)ビル 東館9階研修室
〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11
最寄り駅：東京ビッグサイト駅(ゆりかもめ)徒歩1分、国際展示場駅(りんかい線)徒歩5分

定員 120 ~ 160名 (定員になり次第締め切ります)

お申し込み Peatixよりお願いします。 <https://peatix.com/group/11688302>
※原則としてクレジットカードによるお支払いとなります。
※法人による銀行振込の場合は、お問合せください。
*社会状況等の変化により、中止になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
*会場の都合により、会場での書籍等の販売は行っていません。



お問い合わせ 公益社団法人発達協会 〒115-0044 東京都北区赤羽南2-10-20 TEL03-3903-3800
ホームページ <https://www.hattatsu.or.jp> メールアドレス mail@hattatsu.or.jp

2024年10月20日(日)

S9 遊びを通して発達を促すー感覚、生活動作、学習へのアプローチ



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

子どもも大人も楽しみながら、プログラムを進めましょう

生活や学習の中で、体の使い方や道具の扱いがうまくいかずに困っている子がいます。苦手意識から練習が進まないことも。意欲が低下しないよう、「遊び」として取り入れながら、できることを増やしていきたいものです。また、感覚統合の視点を学ぶことが子どもの感覚や経験の幅を広げていくことにも繋がります。「遊び」について、楽しく学べるプログラムを紹介します。

10月20日(日)	10:15 ~ 11:45	感覚を育てる遊びー感覚統合の視点から	山西葉子 (東京都立大学)
	13:00 ~ 14:30	生活動作を育てる遊びー作業療法の視点から	笹田 哲 (神奈川県立保健福祉大学)
	14:50 ~ 16:20	学習する力を育てる遊びー作業療法の視点から	笹田 哲 (神奈川県立保健福祉大学)

2024年10月27日(日) 2セミナー 同時開催

S10 愛着障害を学ぶ

—園や教室での対応の実際



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

心の育ち、心のトラブルについて考えます

子どもの成長、発達に大きな影響を与える愛着形成。虐待が増える近年、愛着形成に課題のある子どもへのケアに関心が高まっています。愛着障害の症状は発達障害に類似している、また発達障害のある子は愛着形成に問題が生じやすいといわれますが、どう理解したらよいのでしょうか。園や教室での対応も含め、具体的な支援について学びます。

10月27日(日)	10:15 ~ 11:45	愛着障害の基礎知識 —発達障害との関連も含めて	遠藤利彦 (東京大学)
	13:00 ~ 14:30	愛着や発達の課題を抱えた子どもたちの理解と支援—幼児期を中心に	松久真実 (桃山学院教育大学)
	14:50 ~ 16:20	愛着や発達の課題を抱えた子どもたちへの支援—学齢期以降を中心に	松久真実 (桃山学院教育大学)

S11 DCD (発達性協調運動障害) を学ぶ



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

医学的な理解とともに、園や学校で活かせる実践的な支援方法を紹介します

DCD (発達性協調運動障害) をご存じでしょうか。DCDは極端な不器用さを特徴とする発達障害の一つで、近年注目されるようになってきました。不器用さは、運動だけでなく学習や生活など、あらゆる場面で当事者の子どもを困らせています。このセミナーでは、医学的な視点からDCDについて理解した上で、園や学校で取り組める支援や、CO-OPアプローチによる支援を学びます。

10月27日(日)	10:15 ~ 11:45	DCD (発達性協調運動障害) とは—極端な不器用さのある子を理解する	古荘純一 (青山学院大学)
	13:00 ~ 14:30	DCD児への支援の実際	北 洋輔 (慶應義塾大学)
	14:50 ~ 16:20	CO-OPアプローチの実際	塩津裕康 (中部大学)

2024年11月10日(日) 2セミナー 同時開催

S12 困る行動への理解と対応



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

さまざまな行動の問題。子ども自身も困っているかもしれない、という視点も

発達障害・知的障害のある子が起こす行動の問題。周りも対応に苦慮しますが、実は子ども自身も困っているのかもしれない。子どもがどのように世界を捉え、感じているのか、その感覚や認知の仕方を理解しつつ、行動を変えるために、どう関わればよいかを学びます。小児精神・神経科医の立場から考えられる「対応のコツ」についても・・・。

11月10日(日)	10:15 ~ 11:45	困る行動への理解と対応のコツ	広瀬宏之 (横須賀市療育相談センター)
	13:00 ~ 14:30	感覚の困りごとへの支援—感覚の特性をふまえた関わりと工夫	松島佳苗 (関西医科大学リハビリテーション学部)
	14:50 ~ 16:20	行動の問題に対するポジティブ行動支援	原口英之 (所沢市こども支援センター発達支援エリア)

S13 思春期を見据えた支援

—学齢期に身につけておきたいこと



対象年齢： 幼児 |—————| 青年

変化を恐れず、成長を喜ぶ思春期を迎えるために、学齢期の子どもたちに必要なこと

「思春期」は子どもから大人への移行期です。身体だけでなく心やコミュニケーションの取り方など、変化が大きく、戸惑う時期でもあります。その時期を見据えて、発達に様々な特性のある学齢期の子どもたちにどう関わるとよいのか。子どもの育ちを医学の視点から紐解き、社会性の力や、ことばの発達段階をふまえた応答的なコミュニケーションについても学びます。

11月10日(日)	10:15 ~ 11:45	生きにくさを抱えた子の育ち—医学の視点から	田中 哲 (子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ)
	13:00 ~ 14:30	子どもの発達に応じた支援—学齢期に身につけたい力	萬木はるか (京都市発達障害者支援センター「かがやき」)
	14:50 ~ 16:20	言語発達・コミュニケーション支援の実際	池田泰子 (東京工科大学)

2024年11月17日(日)

S14 指導に活かす発達の評価 -WISC-Vを中心に



対象年齢： 幼児 | | | | | 青年

検査の取り方ではなく、結果を解釈し、指導に活かす方法を学びます

指導・支援を行う上で、知能検査は客観的な指標として活用されています。その解釈や活かし方には十分な知識と経験が必要です。このセミナーでは、WISC-Vを取り上げ、用語、数値の意味だけでなく、事例を通して具体的に、現場への活かし方もお伝えします。子どもの困難さやコミュニケーション特性の背景を捉え、検査結果を指導・支援に活かすために。

11月17日(日)	10:15 ~ 11:45	WISC-Vの結果の読み取り方	大六一志(公認心理師)
	13:00 ~ 14:30	知的発達の遅れ、ことばの困難、視覚の困難への指導・支援	大六一志(公認心理師)
	14:50 ~ 16:20	応用力の困難、注意力・集中力の困難への指導・支援(読み書きの捉え方)	大六一志(公認心理師)

対面セミナー アンケートより

発達支援の目指すところは何か、成功体験をどうやって積み重ねていくかなど、具体的に分かりやすい講義でした。(福祉施設・指導員)

支援者もそれぞれ凸凹があり子どもの評価が違おうというお話にとても納得しました。(特別支援学級教員)

感覚を遠ざけること、慣れること、感覚を入れること、様々なバリエーションを紹介していただけ良かったです。(特別支援学校教員)

指先を使うことが苦手なお子さんに向けて、取り組みやすい「遊び」を教えていただいたので、お子さんと楽しみながら行っていききたいと思います。(保育士)

短時間で解りやすくWISC-Vの重要な点を解説して頂き、とても良かったです。事例呈示もあったことで、理解が深まりました。本日のテキストは何度も読みたいと思います。(心理職)

会場に来てよかったです!オンライン上で何回か聞いている話でも、対面だとプラスでたくさん話を付け加えてくださって、とても楽しく勉強できました。(心理職)

それぞれの指標が持つ意味について詳しく聞けたので、分析に活かしたいと思います。報告書の書き方について、留意点や優先事項を聞けたことも良かったです。(心理職)

実践に基づいたご講義で、どのように対応すれば良いか、ヒントを得ることができました。質問にもお答えいただき、ありがとうございました。(教員)

高次脳機能については本で読んでも難しく、いまひとつわかっていなかったのですが、本日のご講義は視覚情報も多く、論理的でわかりやすかったです。理解が進みました。(福祉施設・指導員)

2024年11月23日(土・祝) 2セミナー 同時開催

S15 発達障害・知的障害のある子の「感覚」への支援



対象年齢： 幼児 | | | | | 青年

感覚・身体を通じた成長、発達を促す支援について学びます

発達障害・知的障害のある子の支援において「感覚」の問題に関する知識は必須となりつつあります。このセミナーでは「感覚」への支援に欠かせないアセスメントについても解説し、結果に基づいた支援の実際を紹介します。また、身体を通じて外の世界に気づき、認知の発達を促す「感覚と運動の高次化理論」についても学べるセミナーです。

11月23日(土・祝)	10:15 ~ 11:45	「感覚」の過反応と低反応	岩永竜一郎(長崎大学)
	13:00 ~ 14:30	「感覚」の問題への支援の実際	岩永竜一郎(長崎大学)
	14:50 ~ 16:20	「感覚と運動の高次化理論」による子どもの理解と支援	池畑美恵子(淑徳大学)

S16 脳の働きをふまえた発達支援 -認知行動療法についても



対象年齢： 幼児 | | | | | 青年

脳の働きが子どもの学習や適応に深く関わっています

発達障害のある子どもたちは、脳の働きの偏りによって独特の個性を発揮する一方、日常生活の様々な場面で苦労することがあります。認知の歪みが不適応の一因になることもあります。このセミナーでは、脳の働きを学んだ上で、「認知」に焦点を当てて支援の方法を学びます。認知の歪みを抱えた子の感情・行動へのアプローチを認知行動療法の視点から考えてみませんか。

11月23日(土・祝)	10:15 ~ 11:45	脳の働きから子どもを理解する -神経心理学の視点から	坂爪一幸(早稲田大学)
	13:00 ~ 14:30	感情爆発をくり返す子どもの認知の歪みと認知行動療法	松浦直己(三重大学)
	14:50 ~ 16:20	認知行動療法と教育の構造化	松浦直己(三重大学)

会場 東京ファッションタウン (TFT) ビルへのアクセス

